

次いで、この地域の土地利用を見てみます。大正12年発行の地形図では、ほとんど桑畑になっています。これは川の沿岸部ではよく見られました。水田はかつての流路を推測させる小さな部分で見られるに過ぎません。このほか、竹藪(竹林)が少し見られます。竹はしっかり根を張り洪水に強く抵抗できるため、敷地のうち、河川上流側にあたる部分に多く植えられていたようです。この地域では堤防で取り囲まれてため、役割が小さくなったのでしょう。

昭和47年発行の地形図によれば、その後、堤防の強化等で水害の危険性はさらに低下し、桑畑にかわって普通畑が多くなってきます。自然堤防を構成する水はけの良い砂地を利用した野菜栽培が行われてきたと思われまます。平成12年発行の地形図では、住宅地がさらに卓越した近郊農業地域となっており、農作物は枝豆やほうれん草のほか、大根、カブのような根菜類が多いようです。このように住宅地が卓越してきたのはさらに堤防が強化されたためと考えられます。ただ、昭和51年9月12日に発生した大水害にはこの地域も湛水しています。

以上、同じ地域の年代の違う3枚の地形図を比較して地名と土地利用の変化から地域の特徴を見てみました。そのほか、地図記号なども合わせて読み取れば地域の特徴はもっとはっきりします。

このようにさりげなく日常的に使用している地名(小字名)もそれなりの意味(背景)を持っているのです。現在は市町村合併、都市開発や区画整理事業などにともなって旧来の地名は消えていくことが多いのですが、過去の出来事を蓄積した結果であり、身近な環境を明確に示す標である地名はできるだけ残しておいて欲しいものです。先人の経験と知恵は決して軽んじてはならないと思います。

よく地図を読み、そこに出てくる地名の由来を考え、各種地図記号や土地利用を年代比較することで、より詳しい地域の環境がわかり、その結果、自然災害を避ける方法を考えることもできるわけです。

現在、いろいろな地域で様々な災害予想地図(ハザードマップ)がつけられています。その原点は国土地理院発行の地形図に代表される正確な地図に中にあるといえましょう。

2.5万分の1 地形図「北方」
(大正12年国土地理院発行61%に縮小)

2.5万分の1 地形図「北方」
(平成12年国土地理院発行61%に縮小)

「世界分布図センター」には、13万点を超える分布図・地図、地図関係図書があります。

また、「情報工房」ではコンピュータ及びGISソフトを使ってオリジナル地図や分布図を作成し、印刷することができます。

調査・研究や学習、国内外の旅行の準備等お気軽にご利用ください。

岐阜県図書館

世界分布図センター・情報工房

〒500-8368 岐阜市宇佐4-2-1

TEL (058) 275-5111 (内線286)

FAX (058) 275-5115

URL <http://www.library.pref.gifu.jp/map/>

E-mail mapstaff@library.pref.gifu.jp